

神奈川大
建築科

Kanagawa University

Faculty of
Architecture and
Building Engineering

神奈川大
工学研究科 建築学専攻

Kanagawa University

Graduate School of Engineering,
Department of Architecture and
Building Engineering





神奈川大学建築学部の教育理念と学びについて

神奈川大学建築学科は、1965年4月に工学部の新学科として誕生しました。

創設の中心人物は、初代学科長でもあった谷口忠先生でした。

谷口先生は、それまで東京工業大学教授として地震工学の研究と教育に従事し、

その中で大自然の法則や社会の多様な仕組み、そして、真の幸福という「真・善・美」を知り得た人こそ

建築家にふさわしいという建築哲学を主張していました。本建築学科の開設にあたっては、

「最近の建築教育は、単なる知識と技術を授けた職人の養成に終わっているように思われる。

社会科学と精神科学の一致した広い視野に立って総合的な見解を持つ建築技術者の養成こそ急務だ」と、

単なる技術者教育を否定し、豊かな知識と教養を備えた魅力的な人間教育を目指すと教育方針を述べています。

これは、新たな技術者教育を目指す先見の明といえる主張でした。

そして、本建築学科はこの考え方を教育理念としてきたのです。

2022年4月、建築学科はさらなる発展を目指し、建築学部に生まれ変わりました。

創設以来の教育理念の実現化に向け、新たな教育体制・教育環境に移行するためです。

地球環境の悪化による自然災害の増加や人口減少などの社会構造の変化の中で、

現代社会はこれまでにない新たな解決すべき課題を抱えています。

こうした複雑な課題に対応するためには、これまでの建築技術者ではなく、人間愛に溢れ、

かつ、学際的な豊かな知識と教養を兼ね備えた“建築専門家”が求められているのです。

それは、まさに本建築学部の教育理念に則した人材そのものなのです。

本建築学部では、建築とは、「さまざまな機能(使われ方)と諸技術、そして美とを調整し、

それらの最善の総合化を図ることによって、人間の多様な営みにとって使いやすく、

安全で快適、かつ感動を呼ぶ空間や形態・環境を創造すること」を目的とした活動と考えています。

そのため、建築を学ぶことは、人間とその営み(社会・経済・文化など)から科学や技術まで、

極めて幅の広い分野を学ぶことになります。

みなさんの本建築学部での目標は、4年間しっかり学び、建築を武器とする建築専門家となることです。

そして、ここでの学びを基礎とし、さらに大学院への進学、あるいは、実社会での研鑽を積みながら、

さらなる成長を続けてください。

02	Foreword	神奈川大学建築学部の教育理念と学びについて
04	Features	建築学部の特色
06	Faculty Members	教員紹介
23	Facilities	施設紹介
24	Graduate School	[進学] 大学院でより深く広く学ぶ
26	Career Choice by Graduates	[就職] OB/OG インタビュー

Features

建築学部の特色



入試時に選択した「建築学系」あるいは「都市生活学系」に所属し、2年次前期までは、学部の必修科目などを通して建築学部の多彩なフィールドを幅広く学ぶと同時に、各学系に用意される基礎科目、専門科目を学んでいきます。2年次後期からは各コースに所属し、専門性を深めます。建築学系の学生は「構造コース」「環境コース」「デザインコース」から、都市生活学系の学生は「デザインコース」「住生活創造コース」「まち再生コース」から、コースを選択します。

構造コース | Structural Engineering

>> P.07

地震や台風に強く、経済的で合理的、環境に配慮した美しい建物をつくり、残す。そのために必要な新しい構工法や材料、構造解析の技術を学びます。

環境コース | Environment

>> P.10

環境負荷に配慮しつつ、熱、空気、音、光などの要素からなる建築内外の環境を良好に創出する。そのための知識や技術について学びます。

デザインコース | Design

>> P.13

建築計画の基礎知識、デザイン理論や手法、建築史などを幅広く実践的に修得する。持続可能な社会を実現する、建築の新たなデザインを学びます。

住生活創造コース | Habitation Design

>> P.16

人間の暮らしや住まいのかたちについて、家族、地域社会、地球環境という多角的な視点から見つめ、提案する。住まいの歴史、住宅設計、生活環境のデザインなどを幅広く学びます。

まち再生コース | Town Regeneration

>> P.19

人とまちの関係性を見つめ、新たな「まち」のあり方を考える。既成概念にとらわれず建築や都市のあり方を提案できる知識や技術を学びます。



興味や将来目指すキャリアに合わせて、コースを横断して自由に選択できる独自のプログラムを設置しています。コースに所属し、専門に関する目的意識を持ちながら、複数の専門領域にまたがる興味深いトピックを深く学ぶことができます。プログラム修了者には認定証を授与。



少子・高齢化、グローバル化など、多様な社会の現状や課題を理解し、これからの都市や地域のあり方を広く構想。加えて自然災害や、建築・都市の防災技術を学究するプログラムです。

こんな職業を目指す人に
建築士、建築設備士、建築施工管理技士、国家公務員、地方公務員など



快適な環境のための知識や技術だけでなく、エネルギー・資源・廃棄物などに関する配慮、周辺の自然環境との調和などに関する知識や技術、計画力まで修得するプログラムです。

こんな職業を目指す人に
環境コンサルタント、建築士、建築設備士、国家公務員、地方公務員など



建築や生活空間に関わるインテリアなどについて、実物を制作することで得られる体験と技術の修得を中心に、ものづくりやデザインに関わる知識を得て修得するプログラムです。

こんな職業を目指す人に
インテリアデザイナー、家具デザイナー、建築家、造形作家、職人など



建築のみならず美術やデザインの歴史や理論、さらにはアート・マネジメントなどに関する学修を通じて、文化芸術としての建築について深く学ぶプログラムです。

こんな職業を目指す人に
学芸員、編集者・評論家・建築ジャーナリスト、建築史家、デザイン研究者など



持続可能な社会の実現を目指し、スクラップアンドビルトではなく、既存建物の価値を見出すとともに、社会ニーズや新たなライフスタイルに対応する手法と知識を学ぶプログラムです。

こんな職業を目指す人に
ファシリティマネジメント、不動産コンサルタント、保存再生・改修の専門家など



建物を構成する各種構造システムを理解し、それらを生産する上で必要なオペレーティングリサーチや、品質管理手法などに関する知識や技術、計画力まで修得するプログラムです。

こんな職業を目指す人に
建築施工管理技士、土木施工管理技士、コンストラクション・マネジャーなど

Faculty Members

教員紹介

神奈川大学建築学部では、これまでの建築学だけでなく、社会科学、人文科学、芸術学、人間科学、自然科学、応用科学など幅広い分野を学び、より包括的な意味での「建築学」を理解し、課題解決能力を修得することで、空間、環境、安全性、生活、まちなどに対する専門性と技術を持つ「建築専門家」を目指します。そのために、各分野のスペシャリストが教鞭を執り、5つのコースには多彩な研究室がそろっています。

Faculty Members
教員紹介



Structural Engineering
構造コース

Environment
環境コース

Design
デザインコース

Habitation Design
住生活創造コース

Town Regeneration
まち再生コース



Structural Engineering

[構造コース]

建築物には、先端科学技術を駆使した構法やコンピュータシステムによる構造解析など、多くの理工学的成果が取り入れられています。構造コースでは、人命を守るという「安全」だけでなく、生活上の「安心」が得られるよう、災害リスク、構造安全性、継続性など建築に関わる理工学的側面に主眼を置いた学修を目指します。

Structural Engineering

島崎和司 | SHIMAZAKI Kazushi

構造コース
新機能型構法研究室 教授
[担当授業]
建築の構工法、鉄筋コンクリート構造、
鉄筋コンクリート構造の設計演習他
[部屋番号] 12-35

1 梁部材の鉄筋重ね継手の性能検証実験



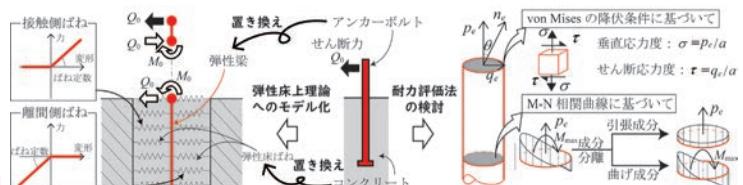
1



白井佑樹 | SHIRAI Yuki

構造コース
新機能型構法研究室 特別助教
[担当授業]
建築の力学及び演習、
鉄筋コンクリート構造の設計演習他
[部屋番号] 12-15

1 コンクリートに埋め込まれたアンカーボルトのモデル化と耐力評価



建物の耐久性や要求される機能を満足させ、美的である建物をつくるには、どういう材料や構造システムを用いるのが最も合理的であるか、そういうことを考えています。最近は、いかに巨大地震に対しても建物被害を最小に食い止めて継続使用できるものにするかという考え方が主流になり、鉄筋コンクリート部材の内部に制振機能を組み込む研究、RCの新構造システム、PC構造への免震・制振の利用なども行なっています。

Faculty Members
教員紹介

Structural Engineering
構造コース

Environment
環境コース

Design
デザインコース

Habitation Design
住生活創造コース

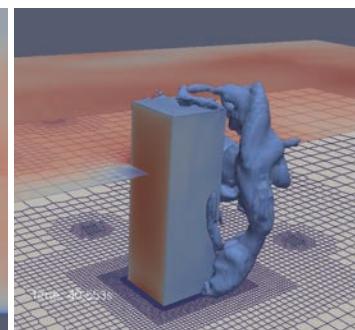
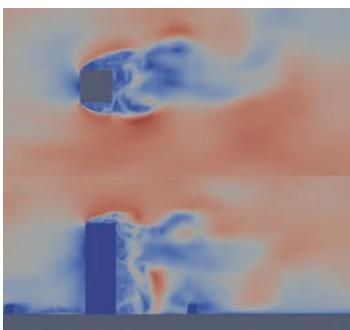
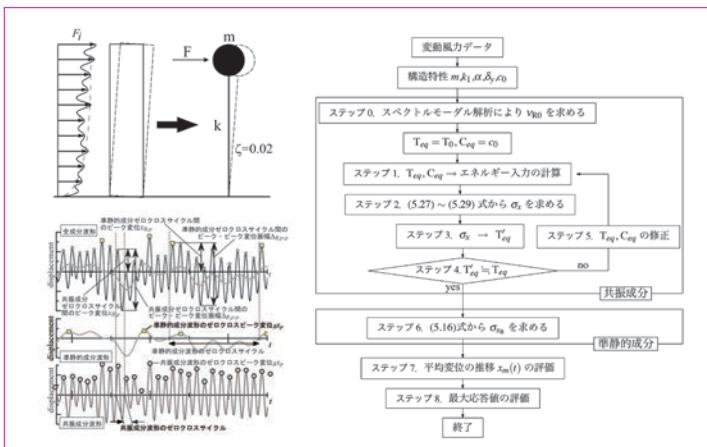
Town Regeneration
まち再生コース

吉江慶祐 | YOSHIE Keisuke



構造コース
耐震耐風構造研究室 教授
[担当授業]
建築の耐震解析及び演習、
建築の力学及び演習他
[部屋番号]12-36

- 1 弾塑性構造物の確率統計的風応答予測法
2 建物周りの風の流れ



Habitation Design
環境コース

藤田正則 | FUJITA Masanori



構造コース
サステナブル構造研究室 教授
[担当授業]
鋼構造・地球環境建築、建築構造・
材料実験、鋼構造の設計演習、
骨組の力学II及び演習他
[部屋番号]8-54



朱牟田善治 | SHUMUTA Yoshiharu



構造コース
災害リスクマネジメント研究室 教授
[担当授業]
建築都市防災、地域防災概論、
力と形・基礎構造の設計と演習他
[部屋番号]8-55



近年、地球温暖化などの影響もあり、災害は激甚化する傾向にあります。加えて、都市のエネルギー環境は激変、人もインフラ構造物も高齢化・高経年化が深刻な社会問題となっています。当研究室では、IoTなど先端的なデジタル技術やセンシング技術を応用しながら、ハードとソフトの両面から、都市の減災対策に寄与する構造物被害のメカニズムやその予測方法、さらには防災情報システムや災害リスクマネジメントなどの研究をしています。

- 1 風速や温湿度等を計測する
環境モニタリングセンサの試作
2 地震被害調査(2016年熊本地震)

中村慎 | NAKAMURA Makoto



構造コース
サステナブル構造研究室 特別助教
[担当授業]
建築構造・材料実験、建築学実験、
骨組の力学II及び演習他
[部屋番号]12-22

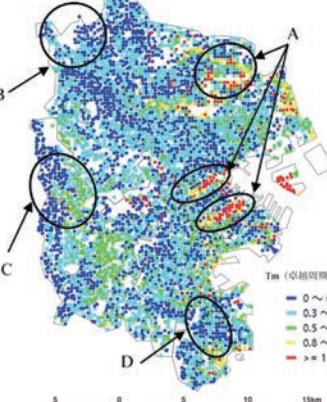


- 1 RC造に接合した
座屈拘束プレースつきの鉄骨フレーム
2 意匠と環境に配慮した
座屈拘束プレースを用いた改修案

落合努 | OCHIAI Tsutomu



構造コース
災害リスクマネジメント研究室 特別助教
[担当授業]
建築構造・材料実験、
建築学実験、力と形他
[部屋番号]12-12



「鳥・虫・魚の目と見えないものを可視化し減災へ……」防災・減災のために多角的なアプローチでの研究を心がけています。たとえば、GIS(地理情報システム)やドローンによる空撮画像など鳥の視点、建物単体の震動や加速度センサの特性など虫の視点、構造ヘルスモニタリングや災害からの復旧・復興過程など魚の視点、また目に見えない地面の下を推定・可視化する研究などです。これらを組み合わせ、安全・強靭かつ持続可能な都市へとつながる研究を進めています。

- 1 微動観測から推定した横浜市の揺れやすさマップ
(落合他、日本地震学会論文集、2019)
2 ドローンで撮影した水害被災地
(令和2年7月豪雨、熊本県球磨川流域)

Environment

[環境コース]

建築は常に新しい形態と空間の創造に挑戦し続けていますが、建築空間の質すなわち建築環境の向上にも努めなければなりません。同時に、環境・設備の分野において省エネルギー、資源循環、地球環境負荷削減などの社会的要件に応えていく必要があります。

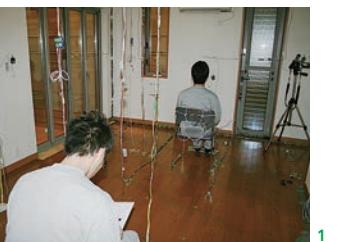
環境コースではこれらを目的とする技術の学修と研究を行います。



岩本靜男 | IWAMOTO Shizuo



環境コース
建築環境工学研究室 教授
[担当授業]
建築環境概論、建築環境工学II
及び演習他
[部屋番号] 12-34



安田洋介 | YASUDA Yosuke



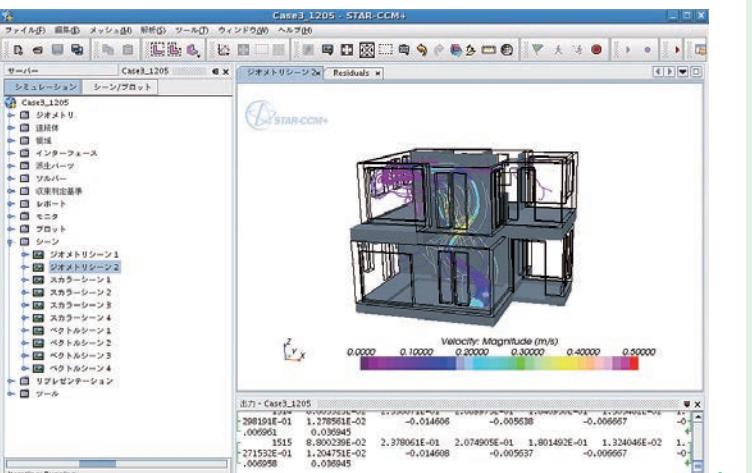
環境コース
音・光環境研究室 教授
[担当授業]
建築環境概論、建築環境工学I
及び演習、建築環境工学実験、
空気調和設備設計演習他
[部屋番号] 6-407



空調設備等によってつくられる「暑くも寒くもない」「汚れていない清浄な」室内環境と、消費されるエネルギーと発生する地球環境負荷をそれぞれ評価して、優れた室内環境を少ないエネルギーと地球環境負荷で実現する方策をテーマとしています。給湯・照明設備に関する検討も行っており、ゼロエネルギー建築や住宅に関する研究も進めています。主な研究方法は数値計算で

すが、本学や他の施設で実験、実測も行っています。

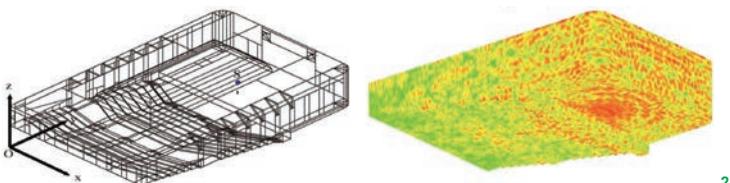
1 A社実験住宅の吹き抜け空間での被験者実験の様子。室内に多くの温湿度センサーを吊り下げ、被験者には部位別の温冷感や快適感を回答してもらった
2 被験者実験を行った実験住宅を対象に、CFD(数値流体力学)ソフトウェアを用いて気流解析を行った事例。吹き抜け空間の空気が階段を経由して移動する様子がわかる



日々の生活を営む建築において、「空間の質」やそれがもたらす「QOL(Quality of Life)」は重要です。これらに密接に関わるものとして、建築環境工学の中でも音環境・光環境、特に前者に関して研究しています。具体的には、建築を建てる前に音環境を予測するための数値解析手法の開発、集合住宅における騒音問題の代表である床衝撃音

を低減するための遮音構造の開発、さまざまな騒音伝搬対策などが挙げられます。建築において音に関する不満が挙がることは少なくありません。ぜひ音に意識的になってほしいと思います。

- 1 床衝撃音低減のための遮音二重床
2 小ホールの数値解析結果。
音の波動性まで考慮した高精度なもの



森長誠 | MORINAGA Makoto



環境コース
音・光環境研究室 特別助教
[担当授業]
建築環境工学I及び演習、
建築環境工学実験、
建築CAD演習、建築情報処理他
[部屋番号] 6-406

建築物の内外に関わらず、空間内での「音の感じ方」が研究テーマです。音の感じ方は、音や空間の物理的な特性だけでは説明できません。むしろ、音を取り巻く社会的要因や、音の受け手の心理的状態などと密接に関係しています。それらの複合要因の産物である「音環境」を解析していくことが主な研究テーマです。

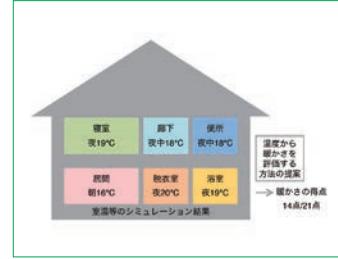
この他にも、AI・機械学習を導入した新しい技術による研究も展開しています。これらのリテラシーを身につけたい方にもお勧めの研究室です。



芹川真緒 | SERIKAWA Mao



環境コース
建築環境・設備研究室 准教授
[担当授業]
建築の設備、空調設備Ⅰ・Ⅱ、
建築環境工学実験、
空気調和設備設計演習 他
[部屋番号] 8-56



1 室温等の計算結果より
住宅の暖かさの評価を行う方法の提案
2 大学講義室の環境測定

吉浦温雅 | YOSHIURA Atsumasa



環境コース
建築環境・設備研究室 特別助教
[担当授業]
建築環境工学実験、
環境システム計画演習 他
[部屋番号] 8-57



自然エネルギーを利用する建築的なシステムをつくるための研究を主に予測計算で行っています。研究内容の例としては、太陽の熱を利用した、室内の空気を健康的に保つ、また熱気を排出する換気システムを考えています。ビルの壁面で蒸発冷却を利用した、夏場の都市を過ごしやすくする工夫を試しています。近年、歴史的に価値のある民家が活用されていますので、そこで生活する方々に、冬を温かく過ごしてもらう技術を提案しています。

- 1 住宅の換気性能を測定している様子
2 調査させていただいた農家が活用された福祉施設

Design

松隈洋 | MATSUKUMA Hiroshi



デザインコース
建築史研究室 教授
[担当授業]
建築グラフィックス、近現代建築史 A
[部屋番号] 8-510



20世紀に世界的なスケールで展開されたモダニズム建築(Modern architecture)は、私たちの身近な生活環境を形作ってきた直接のルーツです。その先駆者の1人ル・コルビュジエ(1887-1965年)は、日本にも大きな影響を与えました。私は、彼のアトリエに学んだ前川國男(1905-86年)の事務所に勤

- 1 前川國男、神奈川県立音楽堂(1954年)
2 ル・コルビュジエ、チャンディガール合同庁舎(1958年)

[デザインコース]

建築はさまざまな営みを包み込む器であり、その創造には実際に多くのことを学ばなければなりません。
デザインコースでは、製図科目を柱とし、建築設計の基礎知識、
デザイン理論や手法、
日本や西洋の建築史など幅広く学びます。
これらを有機的につなげ、建築に関わる「デザイン」を
考えていくことを目的としています。



姜明采 | KANG Myungchae



デザインコース
建築史研究室 特別助教
[担当授業]
建築グラフィックス、設計製図Ⅰ・Ⅱ、
建築史フィールドワーク 他
[部屋番号] 8-510



ヒントを集めています。
私は日本とともに韓国の近代建築についてさまざまな角度から検討し、社会の変化とともに発展してきた建築文化の変容過程を再考する研究を行います。

Habitation Design

Faculty Members
教員紹介

Structural Engineering
構造コース

Environment
環境コース

Design
デザインコース

Habitation Design
住生活創造コース

Town Regeneration
まち再生コース

[住生活創造コース]

生活とその器である住空間を見つめ直し、より豊かなものにすることを目的とし、人間の生活の歴史と住空間のデザインについて学びます。国内外の生活環境についてのフィールドワークやデザイン演習を通して、ライフスタイルの可能性を広げる住空間をデザインする知識と技能を修得し、社会問題を踏まえつつ再構築する力を養います。



鈴木信弘 | SUZUKI Nobuhiro



住生活創造コース
住宅デザイン研究室 教授
[担当授業]
設計製図I、
生活空間デザイン演習II、
住宅設計論、造形デザイン他
[部屋番号] 9-63

菊井悠央 | KIKUI Hisahiro



住生活創造コース
住宅デザイン研究室 特別助手
[担当授業]
設計製図II、住生活創造概論、
生活空間デザイン演習他
[部屋番号] 9-63



1

建築の設計は「住宅に始まり、住宅に終わる」といいます。住宅は身近な暮らしの場でありながら、人間としての生体的環境を快適にするだけでなく、社会とのつながりを模索する場であるという、複雑・多様な要件を備える興味の尽きないテーマです。住宅デザイン研究室では、リアルな住宅の設計とモノづくりの実務を通して「住宅」の諸問題を考え、提案する活動から地域環境と社会圈を良い方向に進めていきます。



2

須崎文代 | SUZAKI Fumiyo



住生活創造コース
生活デザイン史研究室 准教授
[担当授業]
居住空間史、生活空間デザイン演習I、
生活文化フィールドワーク、
住生活創造概論、建築グラフィックス他
[部屋番号] 9-64



2

私たちの生活空間は、衛生思想や技術革新、芸術運動などの影響を受けて近代以降に大きく変化してきました。数々のデザインの試行錯誤から紡ぎ出された知見は、人間生活や地球環境の未来をデザインするための大

きなヒントを与えてくれます。このような観点から生活空間デザイン史研究室では、(身体)・(技術)・(芸術)・(共同性)という4つの切り口から、住宅(台所、風呂、トイレ等)や生活文化の歴史研究に取り組んでいます。



1

1 フランクフルト・キッチン
(マイハウス@レーマーシュタット)

2 田園都市レッチャースと共同家事

印牧岳彦 | KANEMAKI Takahiko



住生活創造コース
生活デザイン史研究室 特別助教
[担当授業]
造形デザイン、設計製図I、
住生活創造概論 他
[部屋番号] 9-64

- 1 オーギュスト・ペレ「フランクリン街のアパートメント」
(1903)、最初期の鉄筋コンクリート造建築
2 アドルフ・ロース「トリスタン・ツラ邸」(1926)、
装飾を排除した近代建築の一例



1



2

現在の私たちが生活している世界をつくり上げてきた過去の建築物や、それらを構想した人々の考えについて、残された史料の分析にもとづいて研究を行なっています。特に研究対象としているのは、現代の建築のひとつの起点といえる20世紀初頭の近代建築、つまり鉄・ガラス・コンクリートといった工業化された建築材料の登場や、大都市の出現による住宅問題といった社会的な課題を背景として現れてきた新たな建築と、その成立に貢献した人々の思想です。

Faculty Members
教員紹介

Structural Engineering
構造コース

Environment
環境コース

Design
デザインコース

Habitation Design
住生活創造コース

Town Regeneration
まち再生コース

立花美緒 | TACHIBANA Mio



住生活創造コース
居住環境デザイン研究室 准教授
[担当授業]
生活環境論、生活空間デザイン演習III、
生活文化フィールドワーク、
住生活創造概論、設計製図II他
[部屋番号] 9-65

1 ギリシャ・サントリニ島でのフィールドワーク



コロナ禍で、リモートワークやワーケーションといったように、住まいと仕事の関係や、暮らしの価値観は大きく変容しています。このような社会的背景と居住環境の関係を、現在と過去から学び、未来の豊かな暮らしを支える住宅を、実践的に提案する研究室です。近現代の住宅と集合住宅、国内外の集落、生産と消費を再縫合する暮らし等について、文献とフィールドワークでリサーチし、地域社会に貢献する建築とインテリアをデザインします。

Town
Regeneration

[まち再生コース]

人々が暮らしがやすい社会にするためには、どのような空間であるべきか。
社会や文化、法律や制度、生活など
さまざまな要素から構成される「まち」を
マクロとミクロの両方の視点から捉え、
今後変わりゆく「まち」をイメージします。
その上で、既成概念にとらわれない
建築や都市のあり方を提案するための
知識と技術を修得します。



山家京子 | YAMAGA Kyoko



まち再生コース
都市計画研究室 教授
[担当授業]
設計製図I、まち再生概論、
都市計画、まち再生演習II他
[部屋番号] 8-66A



住宅地や商店街、国内外の都市再生事例などをフィールドとしています。また、これらの検討を実践する場として、住民参加型ワークショップの運営などを通じて、まちづくりの現場にも積極的に関わっていきます。



1 源兵衛川の多自然型川づくり
2 まちづくり: 十日市場
たからものマップ

柏原沙織 | KASHIHARA Saori



まち再生コース
都市計画研究室 特別助教
[担当授業]
建築CAD演習II、まち再生演習I・II、
まち再生概論、まち再生輪講I・II他
[部屋番号] 9-61



アジアの歴史地区は、古い建物や活気ある商業・生活が独特の街並みを形成している一方、観光化や富裕化等の変化にさらされています。こうしたまちの魅力を継承するためには単なる開発の抑制ではなく、そのまちならではの変化を見出し、建物や活動の両面から変化を誘導する方法を考える必要があります。私はベトナム・ハノイを中心に、観察・文献調査や商業者・住民の方へのヒアリング等を通して街並みの変容実態を把握し、適切な変化マネジメントの手法を提案することを目指しています。

野村和宣 | NOMURA Kazunori



まち再生コース
建築保存活用研究室 教授
[担当授業]
設計製図Ⅱ、建築保存活用計画論、
まち再生演習Ⅲ、まち再生概論、
まち再生輪講Ⅰ・Ⅱ他
[部屋番号] 9-62



高橋寿太郎 | TAKAHASHI Jutaro



まち再生コース
不動産デザイン研究室 教授
[担当授業]
造形デザイン、
デザイン系不動産基礎、
まち再生演習Ⅳ、
ローカル不動産マネジメント論、
まち再生概論、まち再生輪講Ⅰ・Ⅱ他
[部屋番号] 9-62



歴史を積み重ねてきた街には、長く生き続けてきた建築があります。そのような建築には、新築では決して創ることのできない唯一無二の価値があります。その価値を明らかにして次の時代に受け継ぎながら、機能面では時代の要求に合わせて生まれ変わらせていく、そんなまちづくりを研究し実践して



- 1 日本工業俱乐部会館の保存活用を行った再開発
2 三菱一号館・明治期煉瓦造の復元を行った再開発

塩脇祥 | SHIOWAKI Sho



まち再生コース
建築保存活用研究室 特別助手
[担当授業]
建築グラフィックス、
まち再生概論、まち再生演習Ⅲ・Ⅳ、
まち再生輪講Ⅰ・Ⅱ他
[部屋番号] 9-61

- 1 遊休不動産イベント利用 水谷マンション1F
[展示*記録*解体]
2 徳島県牟岐町 モラスコむぎ拠点創出事業・
実証実験イベント



まちづくりの手法は都市のような大きな単位から町や集落、はたまた空きビルや空部屋のような不動産単位まで落とし込んでいく必要があります。私の研究では、遊休不動産を主な対象として、ハードの更新だけでなく、その土地に合わせた場所ごとの特性を実証実験を行うことで抽出します。実験を通して、時間を重ね、考察を繰り返すことで町ごとに必要な人、環境、空間、プログラムを構成し、実践型のまちづくりの研究活動を行います。

上野正也 | UENO Masaya



まち再生コース
まちづくり研究室 准教授
[担当授業]
建築グラフィックス、横浜建築、
まちづくり論、まち再生演習Ⅰ、
都市空間マネジメント論、
まち再生概論、まち再生輪講Ⅰ・Ⅱ他
[部屋番号] 9-63



心地よい感じるまちには、さまざまな工夫や仕掛けが施されています。そして、まちの特徴や魅力を「強み」として引き出す、多様な手法によって、雰囲気や空気感といったものが醸成されています。まちづくり研究室では、これら多様な手法・アプローチについて学ぶとともに、まちの未来を構想する力を身につけます。また、具体的なまちづくり活動に参画し、理論と実践を循環させることで、よりよい地域社会の可能性を探ります。

- 1 八丁畷: 空地の活用に向けた実践的取組み
「チョークアートイベント」
2 かいだん広場: 横浜市中区黄金町地区における
まちづくり(撮影:柳本順也)



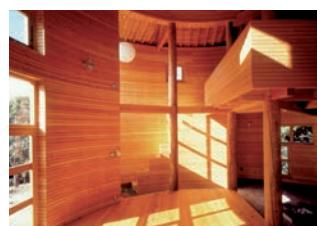
建築学部特任教授

スタンリー・ラッセル | Stanley RUSSELL



[担当授業]
アメリカと日本の住宅設計、
建築デザインⅡ他
[部屋番号] 9-63

1 クラシックカー・ショールームのロビー
(フロリダ州タンパ)
2 自らが設計および施工を行なった芸術家の山荘
(兵庫県淡路島)



建築学部スタッフ

佐藤宏貴 | SATOU Hiroki



教務技術職員
[担当授業]
建築構造・材料実験、
建築学実験
[部屋番号] 12-13

建築学部スタッフ

河内由希 | KAWACHI Yuki



教務技術職員
[担当授業]
工房ものづくり演習
[部屋番号] 31-101-1

Graduate School

[進学] 大学院でより深く広く学ぶ

Graduate School
[進学] 大学院でより深く広く学ぶ

Structural Engineering
構造コース

Environment
環境コース

Design
デザインコース

Habitation Design
住生活創造コース

Town Regeneration
まち再生コース

神奈川大学大学院建築学専攻は、創設から50余年を数える歴史ある教育研究機関です。

創設以来、建築・都市を巡る広い分野で活躍する優れた人材を輩出し続けています。

変革期に差し掛かっている日本ですが、建築分野もその例外ではありません。

新時代の建築・都市分野で指導的な役割を担う素養を身につけるためには、基礎的な学習にとどまらず、

新たな要請に応える方法を創出できるような、深い理解に基づいた思考や応用力が求められます。

本学大学院では、社会での活躍に向けた実践的な教育環境を用意しています。

神奈川大学大学院への進学は、積極的なスキルアップを目指すみなさんに開かれています。

Graduate School
01

一級建築士登録資格を
大学院修了で取得できる



1



2



3



4

韓国、台湾、中国、タイなどの大学が連携して行う「東アジア大学建築都市学術交流セミナー」に参加して諸外国の学生達と議論やワークショップを行う、提携する海外の大学に留学するなど、グローバルな活躍へ向けたチャンスがたくさん用意されています。留学提携先を年々拡げていくなど、継続的な国際競争力の強化に努めています。

Graduate School
02

海外留学や
国際ワークショップで
世界に出る

[派遣交換留学協定大学]

国立台湾科技大学

ケルン工科大学

フランス国立モンペリエ高等建築学校

ルツエルン応用科学芸術大学 工学・建築学部

南フロリダ大学、他



5



6

Graduate School
03

社会とつながり
実践力を磨く

通常の講義や研究活動に加え、東日本大震災被災地での地域住民や行政と連携した復興支援の取り組みや、横浜市あるいは地元商店街と協働した地域振興の取り組みなど、さまざまな組織と連携した学外での調査研究や設計提案を行っています。

こうした実社会と直結した活動を通して、建築の新たな価値が模索されている「ポスト3.11社会」において即戦力となる人材育成を行っています。

Graduate School
04

さまざまな仕組みで
修学をサポート

本学独自の米田吉盛教育奨学金の中には、大学院給費生制度、修学支援奨学金などの他、神奈川大学出身者向けの出身者支援奨学金や、海外への留学生向けの海外活動支援奨学金といった、幅広い制度が用意されています。

加えて、日本学生支援機構奨学金や、本学OB会「宮陵会」による奨学金など、さまざまなタイプの仕組みで修学をサポートしていきます。

Graduate School
05

大学院での経験で
より広がる活躍の場

大学院でのより専門的、実践的な学習により、卒業後に活躍する場所の選択肢も格段に広がります。在学中に行った学外の組織との連携活動や海外での活動がきっかけとなって、新たな就職先との出会いが生まれることも少なくありません。

Graduate School
[進学] 大学院でより深く広く学ぶ

Structural Engineering
構造コース

Environment
環境コース

Design
デザインコース

Habitation Design
住生活創造コース

Town Regeneration
まち再生コース

Credits

神奈川大学 建築学部ガイドブック

JINDAI KENCHIKU 2023

—
編集・発行者：

神奈川大学建築学部

〒221-8686

神奈川県横浜市神奈川区

六角橋3丁目27-1

Tel: 045-481-5661

—

発行日：

2023年3月発行

—

編集：

飯田 彰 / Design Communicator

—

ブックデザイン：

刈谷 悠三 + 角田 奈央 / neucitora

—

印刷：

高速印刷 株式会社

グラフィック



JINDAI ARCH

[JINDAI KENCHIKU Web]

<https://www.arch.kanagawa-u.ac.jp/>

沿革

1928	米田吉盛が「横浜学院」創設(旧横浜市中区桜木町)
1929	専門学校令により「横浜専門学校」設立認可
1930	六角橋に移転、横浜キャンパス開設(5月15日 創立記念日)
1949	学制改革により「神奈川大学」設置
1952	神奈川大学整備拡張計画(設計:山口文象/RIA)
1965	神奈川大学工学部建築学科創設(初代学科長:谷口忠教授、定員80名) 8号館(建築学科研究室、製図室)竣工
1967	12号館(建築学科総合実験棟)竣工
1971	大学院工学研究科建築学専攻修士課程設置
1973	かんな会(建築学科同窓会)設立
1982	同濟大学(中国)、武漢理工大学(中国)と学術交流協定を締結
1985	建築学科創設20周年記念誌発刊
1990	大学院工学研究科建築学専攻博士課程設置
1994	建築学科にシステムコースとデザインコースの2コース制導入
1998	横浜キャンパス再開発開始(2002年完了)
2002	成均館大学校(韓国)と学術交流協定を締結
2003	RAKU(デザインコース年鑑)vol.1発刊
2005	国立台湾科技大学(台湾)と学術交流協定を締結 JABEE認定
2006	建築学科に建築環境コース、建築構造コース、 建築デザインコースの3コース制導入 第1回東アジア建築都市学術交流セミナー(以後毎年開催) 日本建築学会120周年記念大会を神奈川大学で開催
2008	神奈川大学創立80周年、「学校法人神奈川大学将来構想」公表
2010	デンマーク王立芸術アカデミー建築大学(デンマーク)と 学術交流協定を締結、交換留学(部局間)開始
2013	国立台湾科技大学(台湾)と交換留学(部局間)開始 国立モンペリエ高等建築学校(フランス)と 学術交流協定を締結、交換留学(部局間)開始
2015	建築学科創設50周年
2022	建築学部を新設 建築学系と都市生活学系の2学系に、構造、環境、 デザイン、住生活創造、まち再生の5コースを設置

神奈川大学建築学科は、1965年4月に「新しい人間生活の環境をつくり、秩序ある社会生活の場所を建設する技術者の養成」を目的として創設された。創設当時の教員は、『神奈川大学学報』(第76号1966年1月6日)において「日本の建築構造学の最高峰としてまた世界の地震工学会にいろいろの学説で有名」と紹介される谷口忠を中心として集められ、谷口のほか堀口捨己、竹島卓一、白濱謙一、津下一英、川崎浩司を専任としてスタートした。以降各分野のそうそうたる教員が加わって現在に至り、2015年に創設50周年を迎えた。2022年に工学部建築学科を母体とした建築学部を新設。